

年度(西暦)	タイトル(和文)	対象地(英語 (都市名・都道府県名))	概要(300字)	連携先
2010	高速道路IC開業を見据えた地区交通対策提案	Terao-kamata,Ayase-city,Kanagawa	東名高速綾瀬IC設置が発表され、寺尾釜田地区の通過交通増加や周辺地区の住環境悪化が懸念された。そこで現在の道路規制、道路断面、自動車・歩行者の動線等の状況把握を行ったところ、歩行者の視点では「歩道の少なさ」「路上駐車による視界不良」等が、また車両の視点では「急傾斜がある」「カーブミラーの不足」といった問題点が挙げられた。これに対し英国で適用されてきたCTMの考え方にに基づき、「道路の段階構成」「歩行者動線の確保(通学路)」を計画し、手段としてハンプの導入や歩行者専用道路の設定、一方通行規制を提案した。また地域の魅力向上と憩いの場としての公園整備計画も行った。	寺尾釜田地区
	地区再生をめざした都市交通戦略立案	Atsugi-city,Kanagawa	厚木市の本厚木地区を対象に5つの班に分かれて、地域再生ビジョンを提案した。「宿場町再整備」では店舗の間口や配置を整理し、宿場町のような街路を中心とした計画提案を行った。「満ち溢れるまち」では駅前の各街路のコンセプトを定めて沿道用途を決め、色彩や音楽を用いた五感で触れ合えるまちを提案した。「ヨコノミチ」では多様な属性の人が集まる街をテーマにCTMとゾーニングを組み合わせた提案を行った。「歩きやすいまちへ」では歩行者優先を前提に地元住民と来街者双方の視点で道路断面構成の提案を行った。「HOTほっとあつぎ」では商業地区と自然豊かな地区の共存をテーマにゾーン分けと、ゾーン内の交通計画を提案した。	厚木市本厚木地区
2011	香取市佐原地区交通改善計画提案	Sawara,Katori-city,Chiba	住民同士や住民と観光客との交流を深め、「ずっといたい、また来たいと思えるまち」を目指して、双方の視点から整理を行った。住民視点では「高齢者が気軽に出かけられるまち」として、安全な歩行空間、便利な公共交通、多様な活動、コミュニティ強化を図った。観光客視点では「水郷」「伊能忠敬」をアピールポイントとしたWEBサイトの充実、歴史観光地図作成を提案した。またこれらを達成するための広域駐車場管理、歩行者・自転車動線の確保、舟運整備やバス路線再編といった計画を、既存の事例を参考にしながら提案した。	香取市佐原地区
	歩きの新都心ー新しい「歩いて楽しむまち」のかたちを提案	Nigata-city,Nigata	新潟の魅力である「萬代橋」「信濃川」が立地する万代地区の周辺に快適な歩行者回遊空間を整備し、自動車交通に依存しない、歩くことを楽しめる「歩きの新都心」の提案を行った。まず地域の魅力向上のために「まちの魅力肌で感じる空間」「人々が集い賑わいのある空間」「人々の生活に寄り添った空間」「ストレスのない移動ができる空間」「人々に安らぎを与える空間」の5つの空間づくりを軸に、CTMの考え方をういて地区内の歩行者・車両の動線設計を行った。歩行者の動線を最優先にし、その回遊を妨げるような自動車交通は排除した。また地区内の建物用途を適切に混在させることを目指し、高さや用途の規制を地区計画に盛り込む提案を行った。	新潟県万代地区

2011	宮城県石巻市におけるBRTを軸とした復興まちづくりの提案	Ishinomaki-city, Miyagi	同年に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けた石巻では、JR線も運行不可能な状況であった。そこで鉄道に比べてコストが低く、工期の短いBRTを導入する計画が浮上し、実際に計画される場合の路線案や運行頻度、運賃、走行空間の提案を行った。運行・維持管理費については統計資料等から概算を行い、公的負担の程度によるコスト計算を行った。またBRTの沿線に都市機能を集約し、そこから各地区への端末交通を確保して、コンパクトなまちづくりの基本方針をまとめた。方針策定においては沿線各地区の特色を現地調査によりまとめて、特色に見合ったBRTとの関わり方、地区内モビリティの提案を行った。	石巻市
	下北沢駅とその周辺における交通計画の提案	Shimo-kitazawa, Tokyo	区が提示した駅前広場計画案にある広場内のロータリーが必要であるのか、また将来の超高齢化社会に既存の公共交通で担えるのかという問題意識の下、現状把握と人口統計予測から具体的な提案を行った。「多様な人々にぎわう、個性的なまちの実現」を目標に交通計画、財務分析、社会(費用対効果)の視点から、地区のニーズやコストの分析を行った。そのところ幅員が狭く、出発地と到着地がばらつく傾向にあることが分かり、これに対応可能な交通手段としてオンデマンド交通のシステムが有用であり、運賃や果たす役割をまとめた。	下北沢駅
	小田原市における駅前地区再生計画の提案	Odawara-city, Kanagawa	小田原駅の東口駅前地区は、小規模なバスターミナルや地下街があるものの、交通手段間の連携や商業機能との結節が弱いことから、衰退が続いている。また駅前地区と小田原城を結ぶ動線も接続が悪く、公共交通の見直しと歩行者動線の再設計を行うことで、駅前地区の再生を一体的な整備によって図る提案を行った。回遊性向上のためのシンボルロード整備、駅と城址間に商業を集積させる、駅から離れた位置に駐車場を集約させることで歩行者中心の観光拠点の整備を軸に駅前地区再生を目指した。	小田原市
2012	石巻・女川ブロックモビリティデザイン	Ishinomaki-city & Onagawa-town, Miyagi	交通システムの潜在力を最大限に活かしたまちづくりと、鉄道再編を契機とした交通システムの整理を目的に、石巻・女川地域のモビリティデザインを行った。具体的には石巻線の浦宿駅から女川駅間をバス専用道路化して、女川町内各地区からの路線バスを女川駅に集約し、そのまま数珠つなぎにバス専用道路を走行するバス運行の提案を行った。また石巻市の海岸沿いの道路一部をブルバール化し、中央を歩行者の憩いの空間に、その沿道では水産加工品や土産物の販売を行う計画の提案も行った。	石巻・女川地域
	洋光台地区モビリティデザイン	Youkoudai, Yokohama-city, Kanagawa	洋光台駅周辺の道路に着目し、児童の登下校時の安全確保や高齢化の進んだ団地と駅との高低差による不便改善のため、道路断面の構成変更と地区内新規バス路線提案を行った。前者については、自転車専用レーンの設置による歩道上の自転車走行を無くすことでより安全な歩行環境の創出を目指した。また後者については既存の路線のない地区や、駅から高低差のある団地を通る循環バスを設定し、所要時間と導入コストについて概算を行った。さらに洋光台駅前広場のバス・自家用車それぞれの動線の設計をし、両者ができるだけ分離できるようなものを提案した。	洋光台地区

2012	柏の葉地区交通戦略	Kashiwa-no-ha,Kashiwa-city,Chiba	「次世代型環境都市」構築を目指している柏の葉地区で、スマートサイクルやシェアリングなど様々な技術・システムの連携によるパッケージングと、持続可能なシステムとして実装するための事業化可能性の検討を行った。そこで自動車や歩行者等の動線や使われ方を現地調査により把握し、それぞれのモードが他のモードにどのような影響を与えているのかを考察し、適切な改善提案を提示した。その結果自動車はP&Rの推進、バスではキャンパス地区内の循環バス路線と中心市街地である柏駅との無料シャトルバスとの連携、自転車では柏の葉駅および柏の葉公園周辺道路への自転車レーン設置等の提案を行った。	柏の葉地区
	横浜シーサイドライン利用促進策□沿線活用方策の提案	Yokohana-city,Kanagawa	横浜市南部を走る横浜シーサイドラインの利用促進策として、様々な視点からの提案を行った。運行計画では終電繰り下げや料金体系の見直し、企画乗車券の発売をし、利用者の利便性向上と収益のバランスのとれた提案を行った。駅改善ではバリアフリー化やかつて鎌倉古道であった歴史、周辺の道路と建物の調和を考慮した駅デザインの提案を行った。このほか沿線まち歩きイベント開催や周辺観光地、商業施設への拠点としての活用、駐車場の利活用などを含めた幅広い提案を行った。	横浜シーサイドライン
2013	大学構内バス改善提案	YNU,Yokohama-city,Kanagawa	横国大の構内バスでは遅延、使いにくいダイヤ設定、運賃の高さ、混雑等様々な問題が生じていた。そこでバスの発着状況を記録、他の交通手段との定期券割引率比較等を通して、これらの問題に対する解決策を示した。具体的には大学の講義スケジュールに合わせたダイヤ設定と終電繰り下げ、2社ある運行会社の定期券共通化、着席通勤通学バスや羽田空港・新横浜方面への路線新設などの提案を行い、乗客の利便性向上を図った。またバス待ち環境の改善として、上屋付きバス停の設置やバスロケーションシステムのバス停への設置等の提案も併せて行った。	YNU
	都留市における公共交通体系改善提案	Tsuru-city,Yamanashi	都留市の地域公共交通総合連携計画では生活交通の補完として、コミュニティバスやデマンドバスの導入実験を行っていたが、これらが既存の鉄道や路線バスを活かすような計画になっていないという問題があった。そこで自動車に依存しすぎないまちの形への誘導を目標に、より鉄道利用を促すような端末交通手段の検討と鉄道運行計画検討等を行った。電動自転車レンタルシステムの導入では、都留市が谷に位置する地形を活かし小水力発電で賄う提案を行った。また鉄道の料金体系の見直し、駅を起点としたエコツーリズム等の実施を提案した。	都留市
	那覇都市圏バス交通の改善提案	Naha-city,Okinawa	那覇市中心部にある那覇バスターミナル(BT)周辺の再開発が計画され、これを機に複雑な路線網、運行形態をわかりやすいものにデザインし直す提案を行った。基幹交通として既存のモノレールと新たに設定する幹線バスを位置づけ、そこから支線的に地域内への路線の設定を行った。これにより長大なバス路線が短縮され、定時性の確保や乗務員の負担軽減につながることを示唆された。しかし目的地までの移動に乗換が増えるという問題や、乗継時間によるロスの発生等の問題があり、これについては乗継割引やバス同士の連絡のとれたダイヤ設定により、現在よりも早く負担の小さいものとなるように提案した。さらにBTや幹線バスの発着拠点のデザインも行い、市民・観光客双方が利用しやすいものになるよう配慮した。	那覇市、那覇バスターミナル周辺地区

2014	みなとみらい地区における交通情報統合ポータルサイトの提案	Minatomirai, Yokohama-city, Kanagawa	横浜市のみなとみらい地区では現在、歩行空間網や路線バス網、チャイモビ(カーシェアリング)及びペイバイク(シェアサイクル)をはじめとする各交通手段について、それぞれが独自に展開されていることから、利用者にとってわかりやすく、利用しづらい状況となっている。そこでカーシェアリングポートとシェアサイクルポートの配置見直し等、物理的なアプローチによるわかりやすさ改善を図ると同時に、地区内の各手段の情報を一元的に得ることができるポータルサイトの提案を行った。	みなとみらい地区
	那覇	Naha-city, Okinawa	2013と同じ	
	改良型縁石「カッセルカーブプラス」によるバスの正着性向上への貢献の検証	YNU, Yokohama-city, Kanagawa	近年ノンステップバスの普及等により路線バスの乗降は次第にユニバーサルデザイン化がなされているものの、歩道とバス車両との間には隙間が残されており、特に高齢者や障害のある方にとって、乗降に課題が残る状況である。そこで欧州に設置実績のあり、バスの正着性向上への貢献が期待される改良型縁石「カッセルカーブプラス」に着目し、横浜国立大学内のバス停部分に試験的に導入された当該縁石を対象に、実際の路線バス運行の際の縁石車体間距離を調査し、導入前後の比較を行った。その結果、導入前と比較して導入後の平均縁石車体間距離が低減したことが明らかとなった。	YNU
	スカイレールの横浜国大への導入提案	YNU, Yokohama-city, Kanagawa	広島市の住宅地において鉄道駅とをつなぐ住民の足として利用されている、モノレールと索道の中間的技術である「スカイレール」に着目した。横浜国大周辺に近年中に新路線・新駅が設けられることを踏まえ、新駅と横浜国大を結ぶ手段としてスカイレールを導入する提案を行った。また併せて、学内の既存シェアサイクルシステム「COGOO」との連携方策についても提案を行った。	スカイレール、COGOO
	洋光台における郊外住宅地の改善提案	Youkoudai, Yokohama-city, Kanagawa	洋光台は横浜市の南部にある起伏に富んだ町で、大規模団地が立ち並んでいる。ここに住む人たちの環境をよりよくするため、様々な角度から改善案を提案した。1年目は、フィールド調査を基にヒヤリハットが起こりうる道路をピックアップし、歩行者が快適な道になるように再配分の提案を行った。合わせて交通空白地を特定し、新規バス路線の提案を行った。2年目～3年目は、カーシェアリング・自転車シェアリングにスポットを当て、洋光台で導入するとしたらどのような形があり得るかやその際の費用について調査し、また、カーポートの形状やどこに配置するのが適切かなど、具体的に導入する際のビジョンを示した。	洋光台地区
2015	バンコク	Bangkok, Thailand	2015と同じ	
	みなとみらい地区のマルチモーダル交通情報提供アプリ開発	Minatomirai, Yokohama-city, Kanagawa	広域な交通案内サービスや、交通手段が多数存在するみなとみらい地区だが、駅やバス停から目的地までのきめ細かな移動支援情報は不十分である。そのため、みなとみらい地区の現地調査を多数実施し、歩行者動線や、バス停など交通手段の結節点、駐車場や街灯の位置などを調べ、GISを用いてみなとみらい地区の交通空間のモデル化を行った。現地調査や地図上で得たデータを元に、上下運動を含む歩行経路、自転車経路、利便施設等の位置情報、シェアリング車両の位置情報と予約機能などを発信するマルチモーダルな情報提供ができるアプリ開発の基礎を構築した。このノウハウは現在九州大学伊都キャンパスの交通情報提供アプリに受け継がれている。	みなとみらい地区、九州大学伊都キャンパス

2015	横浜都心地区における接続バスを活用した新バス路線の提案	Minatomirai, Yokohama-city, Kanagawa	関内地区、みなとみらい地区をはじめとする横浜都心部では現在観光客向けの路線バスとして「赤いくつ」が運行されているが、一部の地区と地区との間の移動には依然として課題が残っている。一方、世界各地においても、車体・運賃・ルート設定等の面で様々な工夫のある路線バスが確認されることから、フランス・米国・英国をはじめとする各地の都心部における路線バスを前述の視点で整理し仏国ルーアンなどで運用されている接続バスをみなとみらい・山下公園間に導入する提案をおこなった。	関内地区、みなとみらい地区、赤いくつ
	沖縄	Naha-city, Okinawa	2013と同じ	
	洋光台	Youkoudai, Yokohama-city, Kanagawa	2014と同じ	
	天神(渡辺通)のバス交通を対象とした「モビリティ・デザイン」	Fukuoka-city, Fukuoka	福岡市は全国でも有数の「バス社会」の街であるが、その分系統が複雑で、乗り場も多く、来街者のみならず、市民にとってもわかりにくいシステムになっている。また地下鉄の整備に伴い、定時性の保証できないバスは利用者が減少する傾向にある。これらの問題に対して、乗りたくなるバスの内装、天神地区渡辺通バス停のバス停配置の改善、案内表示の拡充等の提案をした。内装の点では座席やつり革の配置の改善等の提案を行った。また案内表示の点では、混雑や遅れ緩和のため、自動販売機でのICカードをチャージするシステムや、バスロケーションシステム活用によるバス車内混雑状況をバス停で知らせる方法の提案を行った。	福岡市、天神地区渡辺通バス停
	横浜国大におけるシェアサイクルシステム「COGOO」の不正利用・収支及び利便性改善提案	YNU, Yokohama-city, Kanagawa	横浜国立大学構内におけるシェアサイクルシステム「COGOO」は想定を下回る広告収入及び不正利用の多発により、収支の悪い状態が続いていた。そこで不正利用抑止、収支改善、利便性向上を柱とする改善提案を行った。不正利用抑止策としては講習会実施、違反者への課徴金、利用時の学生証利用を、収支改善策としては車体とWEBへの広告募集、利用者による維持管理、登録時のデポジット徴収を、利便性向上策としてはポートの増設、利用可能時間の短縮による回転率向上、有料利用者の学外利用許可をそれぞれ提案した。	YNU、COGOO
	横浜駅西口における案内サインのデザインの検討及び提案	Yokohama-city, Kanagawa	横浜駅西口は各鉄道の改札口や商業施設が存在しており、かなり複雑な構造となっている。しかし案内サインは不十分であり、特に西口バスターミナルに関しては案内の数、情報量共に少ない状況であった。そこで我々は現地調査を行い、そこで班員が感じた問題から「必要箇所に案内を新設する」「既存の案内に情報を追加する」「紛らわしい案内をなくす」という課題を設定した。その改善策として案内サインの具体的なデザインを検討し、Photoshopを用いて作成した。この案内サインを問題箇所に設定した場所の写真に貼り付けることで、それぞれの箇所における具体的な提案を現状と視覚を用いて比較できる形にして提案を行った。	横浜駅西口

	鷺沼駅周辺における再整備提案	Saginuma, Kasawaki-city, Kanagawa	鷺沼駅前のロータリーは狭く、通勤時間帯を中心にバス・タクシー・一般車で混雑している。ロータリー周辺の信号も複雑であり、周辺の道路の渋滞の発生や歩行者の信号待ちという問題が発生している。こうしたロータリーの混雑や歩行者と車の動線の複雑な交差を解決するため駅周辺の再整備の計画を行った。ロータリーを廃止し、駅前広場の外周にバス専用の道路と乗降場を整備し、タクシー・一般車の乗降場を別に設置した。また、駅と商業施設の間の道路を廃止し動線の交差を解消した。また、広場の設置により周辺住民の憩いの場とすることを目指した。	鷺沼駅
	自家用車から鉄道への転換を目指した東南アジア向け鉄道雑誌作成の試み	Bangkok, Thailand	近年タイ・バンコクをはじめとする東南アジア諸都市において、都市内交通としての鉄道整備が多数行われている。しかし、一度モータリゼーションの進行した都市においてこれらを整備する場合、市民が自家用車から鉄道へ転換するための方策が求められる。そこでまず鉄道を好きになってもらう過程に着目し、我が国における鉄道雑誌の存在に注目した。今回はその一つである「鉄道ジャーナル」に倣い、現地取材等を行ったうえで「東南アジア版鉄道ジャーナル」を試作し、バンコクの大学に通う学生へのアンケート調査を行った結果、概ね好評を得た。	タイ、バンコク、バンコクの大学
	火山リスクとの共生を目指した箱根町における交通改善提案	Hakone-town, Kanagawa	我が国有数の観光地である箱根は豊かな温泉で知られているが、その豊かさは火山活動と裏表の関係にあり、ひとたび火山活動が活発化すると、観光は深刻な影響を受けるという課題がある。特に湯本・強羅・大涌谷・桃源台・元箱根をめぐる「ゴールデンルート」は大涌谷における火山活動活発化によって途切れることがあり、これが火山活動の影響を箱根全体に広げる一因となっていると考えられる。そこで火山リスクとの共生を目指し、仙石原地区の美術館等の資源を活用した新たなゴールデンルートの構築や、地区内の交通における複数の会社を跨ってシームレスに利用できる新たなフリーパス、また火山に親しむことのできる施設等を中心とする火山リスク共生策の提案を行った。	箱根、湯本、強羅、大涌谷、桃源台、元箱根
	伊豆高原における駅前空地利用による再開発の提案	Izukogen, Ito-city, Shizuoka	伊豆急行線伊豆高原駅は周囲に観光施設等が存在し、伊豆半島観光の拠点の一つとなりうる場所である一方、駅から各地への利便性が十分とはいえない状況である。そこで、駅周辺の低未利用地を活用してパークアンドライド用の立体駐車場の整備する案、及び駅から比較的距離の各施設へのアクセスに利用可能なレンタサイクルを導入する案を中心とする伊豆高原駅の観光拠点化に向けた整備提案を行った。	伊豆高原駅
2016	横浜都心部における公園内を走る観光向けLRT整備の提案	Yokohama-city, Kanagawa	横浜都心部において新たにLRTを整備する提案を行った。観光利用をターゲットとし、馬車道や日本大通り地区から大通り公園までを結ぶ単線ループ式の路線とした。その中で特に大通り公園周辺地区に着目し、公園の中を通るLRTとすることとした。購買活動を第一とせず、時間を楽しむ空間をコンセプトとし、全天候型のイベントスペース、カフェの設置や市役所前における目を引く転車台の設置を含む、これまでにない公園内を走る新たなLRT整備の計画とした。	大通り公園

2016	米軍跡地と鉄道駅を結ぶモノレールと相応しい規模の地区開発提案	Kamiseya, Yokohama-city, Kanagawa	横浜市瀬谷区の米軍上瀬谷通信基地は我が国に返還されることが決定している。その跡地において開発が行われることを前提に、相鉄線瀬谷駅とのアクセス手段として懸垂式モノレールを整備することを検討した。そのうえで、このモノレールの建設費及び運営費を賄うために必要な開発の規模を算定するという通常の計画手法とは異なる検討を行った。モノレールは湘南モノレールを参考に諸費用の計算を行い、開発は20代～30代をターゲットに歩車分離などの特徴を有する地区開発案を提案し、十分に良好な採算性が実現可能であることを明らかにした。	横浜市瀬谷区、瀬谷駅
	柏市における歩行者空間拡大のための地区交通計画提案	Kashiwa, Chiba	千葉県柏市の中心市街地はつくばエクスプレスの開通や郊外の大型商業施設出店等の影響を受け、売り上げ高等の減少がみられる。ここで、交通や土地利用、商業の観点から柏市は10カ年計画を策定しているが、今回はこの計画に基づいたうえで、歩行者空間をさらに拡大する提案を行った。デザインの統一により柏駅東口の駅前空間やサンサン通りとハウディモールとの連続性を改善したうえで、ハウディモールを完全歩行者空間化することにより、都市の中心としての役割を再興させる提案を行った。また、この際に検討すべき荷捌きの課題については、時間帯別の規制を行うことにより影響の最小化を図った。	柏市、柏駅
	旭川中心市街地における歩行者・バスのための「場」のデザイン	Asahikawa-city, Hokkaido	北海道旭川市には中心部に歩行者空間「平和通り買い物公園」が整備されている。中心市街地を老若男女問わず安らげる場所とするべく、低未利用地の存在に着目し、モビリティの視点から提案を行った。平和通り沿いの駐車場を周辺に移転し、わかりやすいバス路線への再編と併せて利便性が高かつ居心地の良いバス待ち空間の整備を提案した。併せて、暫定利用策として駐車場におけるキッチンカーによる食品等販売の提案を行った。	旭川市、平和通買物公園
	プロジェクトを用いたバス接近情報の投影実験	YNU, Yokohama-city, Kanagawa	横浜国大構内に乗り入れる路線バスについて、バス停において接近情報等を利用者にわかりやすく提供する新たな方法を検討した。プロジェクターを利用し、屋外において建物壁面に情報を大きく投影する方法を考案し、横浜国大内の国大西バス停正面に位置する土木工学棟壁面に情報を投影する実験を行った。視認性を改善するための改良を数度行った結果、バス停より十分に情報を得ることができることが確認された。	YNU